



|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 大阪外国語大学アジア太平洋研究会の活動記録   |
| Author(s)    |   |
| Citation     | 大阪外国語大学アジア太平洋論叢. 1997, 7, p. 247-252  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/99760">https://hdl.handle.net/11094/99760</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 【大阪外国語大学アジア太平洋研究会の活動記録】

1996年4月20日(土) ワークショップ：「アジア国際関係史の新地平を求めて  
—杉原薰著『アジア間貿易の形成と構造』の問題提起を受け  
て—」

### (1) 論点開示

- (司会) 脇村孝平（大阪市立大学）、小瀬 一（龍谷大学）  
(パネリスト) ①籠谷直人（京都大学）：日本経済史の立場から  
(ディスカサント) ②谷本雅之（東北大学）：日本経済史の立場から  
(パネリスト) ③黒田明伸（名古屋大学）：中国政治経済史の立場から  
(ディスカサント) ④西村成雄（大阪外国語大学）：現代中国論の立場から  
(パネリスト) ⑤柳沢 悠（東京大学）：インド社会経済史の立場から  
(パネリスト) ⑥池本幸生（京都大学）：東南アジア地域研究の立場から  
(パネリスト) ⑦秋田 茂（大阪外国語大学）：イギリス帝国史の立場から  
(ディスカサント) ⑧平田雅博（青山学院大学）：世界システム論の立場から  
(著者) ⑨杉原 薫（ロンドン大学SOAS）：著者からのレスポンス

(2) 討論：(司会) 脇村孝平（大阪市立大学）、小瀬 一（龍谷大学）  
アジア国際関係史研究会、H-NETと共に

4月24日(水) パトリック・K・オブライエン（ロンドン大学歴史学研究所・所長）  
「イギリス産業革命論の現在」  
“Recent Interpretations of the Industrial Revolution”  
関西イギリス史研究会と共に

5月24日(金) ワークショップ「アジア太平洋圏におけるシンガポール」  
①岩崎育夫（アジア経済研究所・動向分析部）  
「シンガポールの国家アイデンティティとアジア太平洋戦略」  
②上月康嗣（大阪商工会議所・国際部）

「シンガポールにおける日系企業の活動と企業戦略」

コメンテイター：寺岡 寛（中京大学・経営学部）

6月6日(木) アジア太平洋セミナー

R. H. ヴァンワグナー, Jr. (Vice President & General Manager, Procter & Gamble Far East)

「グローバル化の現状とそのインプリケーション—アジア・ビジネスの視点—」

6月11日(火) ワークショップ「H-NETとは何か」

①リチャード・ジェンセン (H-NET会長、米国イリノイ州立大学)

②ディーアン・キャンベル (H-NETプロジェクト責任者、米国オースティン・バー州立大学)

③マーク・コーンブル (H-NET運営委員会委員長、米国ミシガン州立大学)

コメンテイター：杉田米行（大阪外国語大学）

岡本公一（早稲田大学国際部）

7月4日(木) KIAPS特別講演会

ジェイ・M・パーカー（米国陸軍士官学校・国際関係部長、陸軍中佐）

“The Context of Changes in the U.S. -Japan Security Relationship”

7月19日(金) 日本・タイ・ベトナム三国の近代化に関する比較研究懇談会

①Chavivun Prachuabmoh (タイ・タマサート大学社会人類学部)

②Thirayuth Boonmi (タイ・タマサート大学社会人類学部)

③Do Thai Dong (ベトナム・社会科学研究所)

④Pham Bich San (ベトナム・社会科学ナショナルセンター社会学研究所)

コメンテイター：富田健次（大阪外国語大学）

財団法人「アジア太平洋センター」（福岡市）と共催

9月24日(火) 日米関係セミナー

ティモシー J. マッキーオン（米国ノースカロライナ州立大学）

「戦後の東アジアにおける日米協力の役割 一援助・安全保障・国際機構を中心としてー」

米国大使館(USIA)関西アメリカンセンターと共催

10月8日(火) アジア太平洋セミナー

藤田昭彦（毎日新聞社編集委員）

「取材活動を通して見たアジアー民衆レベルの関わりを中心にー」

コメンテイター：高山正樹（大阪外国語大学）

10月24日(木) アジア太平洋セミナー

秋田 茂、山田康博、田中 仁（大阪外国語大学）

「H-HETをめぐる米国視察旅行報告」

11月11日(月) ワークショップ「1930年代東アジアの国際関係とイギリス」

①Peter J. Cain（シェフィールド・ハーラム大学）

“British Economic Imperialism in China in the 1930s”

②籠谷直人（京都大学・人文科学研究所）

“Japanese Cotton-textile Diplomacy in the 1930s”

③秋田 茂（大阪外国語大学）

“British Perceptions of Japanese economic development in the 1930s

—Commercial Counsellor, Sir George Sansom's case—”

11月27日(水) KIAPS特別講演会

Dr. Francisco Nemenzo（フィリピン国立大学・社会科学部、国際基督教大学）

“APEC, Counter-APEC: A Tale of Two Conferences”

12月5日(木) ワークショップ「アジア太平洋地域における都市の変容」

①松川誠一（東京大学・社会科学研究所、学振特別研究員）

「グローバル化のローカルな基盤：環太平洋圏における空間的分業の再編成」

②田口芳明（奈良産業大学、大阪府立産業経済研究所）

「アジアの将来像と都市」

コメンテイター：高山正樹（大阪外国語大学）

1997年1月17日(金) アジア太平洋セミナー

市村真一（財団法人・国際東アジア研究センター）

「環太平洋諸国の経済と政治」

1月30日(木) アジア太平洋セミナー

①アントニー・M・ベスト（ロンドン大学LSE）

“Anglo-Japanese Relations in the 1930s: The Inevitable Road to War?”

②山根 聰（大阪外国語大学）

「アフガニスタン問題の現状」

3月2日(日)——3月3日(月) 赤木科研合宿研究会

1997年3月2日(日)

(1) 合宿研究会・第一セッション 13:00—16:00

ワークショップ1・「アジア太平洋圏」概念の比較研究

(1)赤木 攻：「日本におけるアジア太平洋圏概念の由来－大来佐武郎氏の活動を中心にして－」

(2)田中 仁：「中国・台湾とアジア太平洋圏」

(3)秋田 茂：「東南アジアとアジア太平洋圏－シンガポールの動向を中心にして－」

(4)津田 守：「フィリピンとアジア太平洋圏」

(5)河原匡見：「オーストラリアとアジア太平洋圏」

(6)松田 武：「漂流し続けるか、それとも運命を支配するか－日米関係の将来－」

まず、研究代表赤木から、共同研究の全体構想の再検討が提起され、具体的に

日本から見た場合の「アジア太平洋圏」の捉え方を、大来佐武郎氏の活動を事例として提示した。次いで、①「アジアから見たアジア太平洋圏概念」、②「欧米・オーストラリアから見たアジア太平洋圏概念」を、上記5名のメンバーの報告をもとに議論した。

(2) 合宿研究会・第二セッション 16:30-18:00

講演会：飯島 健（さくら総合研究所環太平洋研究センター長）

「アジア経済の発展とわが国の対外政策」

ゲストスピーカーの飯島氏から基調講演が行なわれ、参加者との間で「アジア太平洋圏」に向けた日本の対外政策をめぐって活発な質疑が展開された。

1997年3月3日(月)

(3) 合宿研究会・第三セッション 9:30-12:00

ワークショップ2・「アジア太平洋圏の地域統合と経済」

(7)高山正樹：「APECとアジア太平洋圏」

(8)寺岡 寛：「日本企業のアジア太平洋圏への進出－生産リンクエイジの観点から－」

(9)野村茂治：「アジアの経済発展は奇跡か？」

(10)森藤一史：「アジア的価値と西洋文明」

アジア太平洋圏の経済統合の現状を、理論面と製造業の海外展開という実態面、さらにそうした発展を支える枠組みであるAPECとの関連で、総合的に考察した。

また、文明・文化面からの相互交流の緊密化の意味するものを検討した。

(4) 合宿研究会・第四セッション 13:00-15:00

ワークショップ3・「アジア太平洋圏の安全保障問題」

(11)村山裕三：「東アジアにおける大量破壊兵器の不拡散問題」

(12)村田晃嗣：「日米安全保障関係の現状と課題」

(13)山田康博：「集団安全保障体制構築の試み－ARFの事例を中心にして－」

アジア太平洋圏の安全保障問題を、日米・日韓の二国間関係とARFに代表される多角的な集団安全保障体制を比較しながら、将来の課題を明らかにした。

(5) まとめ 15:00-15:30

(14) 桑島 昭：「資料とは何か—1960年代前半から半ばのインドー」

最後に、インド現代史を具体的事例として取り上げ、歴史研究および現状分析を行なう上での各種資料の扱い方とその限界、問題点を議論した。

そのうえで、第二年次の研究成果を確認した上で、最終年次に向けた共同研究の課題並びに研究方法を議論し、参加者全員の合意のもとで、各自の分担する研究課題をさらに深く追求することを確認して、合宿研究会を終えた。

3月10日(月) アジア太平洋セミナー

木村光彦 (神戸大学大学院・国際協力研究科)

「北朝鮮の経済—その歴史と現状」